

はやぶさ 第81号 2014年05月16日(金)

=====

発行責任者： 一般社団法人 経営特訓士協会（略称：K T G A）

理事長 平本 靖夫

（Captain 平本：（株）I&C・HosBiz センター）

編集責任者： 理事 石川 昌平

はやぶさのバックナンバーURL：<http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

一般社団法人 経営特訓士協会

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

=====

メルマガ「はやぶさ」 第81回目の発信です、5回シリーズの第2回です。

著者：（株）産業革新研究所

ものづくり革新ナビ 主宰者

<http://www.monodukuri.com/>

社長 熊坂 治

タイトル：ものづくりプロセス革新のススメ

***** 本題 *****

第2回 ものづくりの歴史を振り返る

ものづくり革新ナビゲーターの熊坂です。きょうは、しばし過去のものづくりの

歴史を振り返ってみましょう。

戦後の日本経済は、急激な発展を遂げ、一時的に一人当たりの名目 GDP が世界で 1 番になったわけですが、1990 年以降は停滞が続いています。その理由の一つとして挙げられるのは、日本の人口構造の変化です。1993 年には生産者人口がピークを過ぎて、2004 年からは総人口が減少しています。単なる数の問題ではなく、国民一人一人が多くの「もの」を保有し、新製品によほどの魅力を感じない限りは買い替え需要だけの消費構造となっているのです。

しかし、一橋大学の林文夫教授によれば、TFP（全要素生産性）成長率の低下、信用収縮による投資不振と公共投資の非効率性が、この時期の経済停滞の主要因と分析されています。特にサービス産業や事務系作業は、諸外国に対する相対的な生産性の劣位が指摘されており、豊かな将来を構築するためには、金融緩和や財政出動、規制緩和といった政策以上に、国民による愚直な生産性向上活動が重要と考えられます。

有史以来 200 年少し前まで、製造業は長らく少人数の暗黙知のプロセスで小規模の生産を続けてきました。英国を起点とした産業革命で、動力を使うことによる大量生産が可能となったのは、つい 18 世紀後半の話です。

近代的生産の起源である科学的生産管理を Taylor が発表したのは、さらにその 1 世紀以上後であり、生産の効率化を体系的に考え始めたのは今からたった 100 年前の話なのです。

第 2 次世界大戦後はそれらが日本に導入されたのに加えて Deming らが統計的品質管理（SQC）と組織経営（TQC）を指導し、それらが当時の要求と国民性に合致したため、日本の生産性と品質が急速に向上しました。しかし 1990 年代になって、日本は前述のように社会構造が変化し、必需品が行きわたり、低価格、高品質であろうと需要が喚起し難い市場になりました。製品企画/設計で新たな価値を提案する重要性が高くなり、開発 3 種の神器とも呼ばれる QFD/TRIZ/品質工学が普及してきました。

このように、時代の要求が変化するとそれに応えるように有効な手法活用が普及します。それは言ってみれば高木の葉を食べるキリンの首が長く、木を登るカエルの足に吸盤があるように、環境適合の為に発達する進化論の類と言えましょう。

必要な手立てを使わず、従来のプロセスを頑なに踏襲していた企業が消滅していった結果です。

一方で、新しい手法に次々に飛びついた企業、組織が総じて発展したかといえば、そうではありません。組織の優先課題に有効な手法を選択することと、何よりも使う人間の意欲が実は最大の問題であることを多くの経営者が知っています。

とはいえ、もし組織が課題を熟知しており、それを何とか解決したいという強固な共通認識があるのならば、実績ある手法は必ずや効果を示します。

製造業から一歩身を引き、産業間の就業者移動を見てみると、タイミングの違いはあれ、第一次産業から第二次産業を経由して第三次産業に移っていくのが一般的であります。日本にしても 130 年前は就業者数の 8 割が農林水産業に従事してようやく全国民に食料を供給することができていたものが、この間食料品輸入の増加があるにせよ、農業技術の進歩によって労働生産性が向上し、今やわずか数%の就業者によって 1 億 2 千万を超える国民が食べていけるわけです。しかもこの農業革命によって失業者が大量発生したという話は聞きません。これら第 1 次産業から移ってきた人たちによって第 2 次、3 次産業が発展する事ができています。

昨年は製造業の就業者数が 51 年ぶりに 1,000 万人を割り込んだと話題になっていますが、出荷額は必ずしも減っていません。一人あたりの出荷額にすれば、ここ 15 年間で 30% も伸長していますし、一人あたりの付加価値額も若干ながら上昇しています。

つまり一時期の農業と同じように、就業者を減らしながら健全に生産性を向上させてきているのです。

国内需要増大が望めない現代にあって我々が心がけるべきことは、製造業の就業者数減少を食い止める事ではなく、さらに少ない人数で同等以上の生産額や付加価値をアウトプットする事、すなわち労働生産性の向上です。そしてそこで余剰となった労働者が、さらに付加価値の高い業務に移動する事で、初めて国民の生活は豊かになります。

P. Drucker が提起するところのナレッジワークがその筆頭候補でしょう。海外に比較して低いと言われるサービス産業の生産性改善とともに、さらに付加価値の高いナレッジビジネスを振興しない限り、日本の財政改善と生活水準の向上は望めません。

やや脱線しますが、日本農業の労働生産性はオランダの 40 分の 1、アメリカの 10 分の 1 とも言われ、極めて低い水準にあります。保護されながら長期的に競争力を維持した産業はかつて皆無で、政府の長年に渡る農業政策の失敗を反省すると同時に、我々も他山の石として自律的努力の重要性を認識すべきでしょう。

◆DVD「経営特くんゲームのすすめ方」と小冊子「経営のゴールド免許の取り方」を
プレゼントします。下記よりお申し込みください。

アドレス : happy@keiei-tokkunshi.jp

***** お知らせ *****

◆事務所移転のお知らせ◆◆◆◆◆

5月1日（木）よりJR山手線/東京メトロ南北線 駒込駅近くに移転いたしました。

TEL 03-5832-9403 FAX 03-5832-9404

夜景にスカイツリーが一望できて、快適な場所（12階）です。

以下のHPを参照ください。

アドレス：<http://keiei-tokkunshi.jp/othoers/map.html>

=====

[illegible]

経営資源パワーアップ講座として、平日夜間の2時間セミナー開催を企画しました。

三現（現場、現物、現実）主義にもとづく実戦講座です。

第7回 経営資源パワーアップ講座 2014年06月11日(木) 17:30~19:30

テーマ：ものづくりプロセス革新のススメ

～製造業はこうやって躍進する～

*講師は、(株)産業革新研究所の代表取締役であり、技術士でもある
熊坂 治氏 です。

<http://www.monodukuri.com/>

http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls7231pdf_2_45.pdf

=====

http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls7231pdf_1_48.pdf

[illegible]

*第8回の認定講座は、

6月21日(土)、22日(日) 10:00~18:30 駒込駅近・経営特訓道場

詳細なご案内は、以下に掲載しています。

http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls7231pdf_1_42.pdf

1日コースとの組み合わせで、2日間の履修とすることもできますので、ご相談ください。

[illegible]

開講決定次第、ご案内します。

認定インストラクターは、現在19名です。

イラスト付きで、以下のURLに掲載しております。

<http://keiei-tokkunshi.jp/staff.php>

注)「経営特くんゲーム」の概要は、下記のHPを参照ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

=====

編集後記

はやぶさのバックナンバーURL : <http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

「はやぶさ」の第81号を発行しました。

本号の編集後記は編集責任者の石川が書きました。

-
- ・ 5月8日（木）の夜、東京中小企業家同友会千代田支部の夜例会で、平本理事長が「企業経営の「ゴールド」免許の取り方」というテーマで講演しました。

参加者の半数以上の方が、「経営特訓くんゲーム」と「人時生産性の向上」に関心
を示していただきました。懇親会では数社から個別に相談したいというお話や人時
生産性の実戦講座の要望がありましたので、次の開催を検討することになりました。

- ・ 6月11日（水）には著者であります熊坂講師の「ものづくりプロセス革新のススメ」
のセミナーがありますので、是非ご参加のうえ、直接「ものづくりプロセス革新」の
ポイントを体得ください。

読者の皆様から、ご要望や率直なご意見をいただきますと、発信する勇気と力が
湧いてきますので、皆様からのメールを心待ちしております。よろしくお願いします。

アドレス : happy@keiei-tokkunshi.jp

一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス : happy@keiei-tokkunshi.jp

配信解除URL : 配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

http://asul2.com/d.php?t=test&m=stone_river@hosbiz.net

=====